

2014 vol.197 OCT

SOUSAKU

創作手工芸



公益財団法人日本手工芸作家連合会

●手工芸美学

公益財団法人日本手工芸作家連合会

会長 花村 邦 昭



手工芸作品によって生活を彩るという人類の営為は太古からのものですが、やがてそれは日常経験の地平を拓ける実践へと、そして、人間の具体的な「生」に対する関心の高まりとともに、心情の直感や愛の共感を基本とする「感性学としての美学」（バウムガルデン）へと昇華されていきます。

しかし「手工芸美学」はあくまでも日常の実践の世界に軸足を置きます。その実践と体験によって人を高揚した創造的情態に導き新たな創造へと誘います。そうやって「美」を実践的・体験的に知覚するとき、人はそこに「快」を覚えます。「快」は精神を活性化します。「快」を求めて「美」は新たな挑戦となります。こうして「手工芸美学」は「快の美学」へと拡張されます。

このように「手工芸美学」はあくまでも生活実践の学です。物事を外から観照するものではありません。知的表象の水準に移して理解するのでもありません。むしろ、そういう立場を根本的に反省するところに「生活美学」としての「手工芸美学」が成

立します。それを駆動し支えるのはあくまでも「生」です。「生」とはそこに「自ら参入して生きる」ことです。すべてを根源的な日常生活体験に「根づかせる」ことです。「参入」と「根づき」、そこには生の緊張があります。生の緊張を弛めるや否や手工芸作品は平板な実在へと貶められてしまいます。

手工芸作品の制作において人は、自らの生存を追体験的に理解します。しかし、それが「美学」であるためには自分自身に対して距離を置かねばなりません。生存と体験が一つになってしまえばそこには「美学」は成立しません。それでは単なる自己満足でしかありません。求められるのは、実際にこの世に生きて事物と交わり他者と語り合い、そこに何事かを企てるわれわれの生存の現実を、ありのままに歪めることなく生きることです。

目指されるのは、日常を己のものとして引き受け、その促しに実践によって答えることです。しかし、生と実存とを強調するあまり人間的知覚世界の地平としての自然的世界を忘れてはなりません。「手工芸美学」の有効性は、生存の意味を問い、これに何がしかの答えを示唆するという生存の仕方そのものに関わる次元での有効性です。一言で言って、生存そのものを創成することです。日常的な意味連関のなかに埋没している原初的な感覚機能の生命を蘇らせることです。そこに世界の意義を、われわれ自身の生存の意義を輝き出させることです。

今年も間もなく上野の東京都美術館で当連合会主催の「公募 創作手工芸展」が開催されます。手工芸美学の輝きを鑑賞させていただける喜びを胸に、皆様方と会場でお目にかかれることを楽しみにしております。

●第47回創作手工芸展

本連合会主催の「創作手工芸展」は、今回で47回目の開催となります。

本年も東京都美術館のギャラリーCにて、11月8日(土)より11月15日(土)までの8日間にわたり、文部科学大臣賞、東京都議会議長賞など数々の受賞作品を展示いたします。

入場は無料となっておりますので、素晴らしい手工芸作品をご覧になっていただきたく皆様のご来場をお待ち申し上げております。

●ホームページのアピール記事

当連合会では、ホームページにて、創作手工芸展、講習会など活動内容のご案内を、作品などのカラフルな写真を添えて公開させていただいております。

アクセス方法は検索エンジンで「手工芸作家」と入力もしくは以下のURLアドレスをご指定ください。

<http://www.syukogei-sakka.or.jp/>

●支部作品の後援

☆梅支部

2014年9月23日から28日までNHK福岡放送センターギャラリー2Fにて梅支部による第22回創作手工芸展を開催し、10種類の手工芸作品を展示いたしました。

多くの方々に来訪していただき、各ブースではお客様との触れ合いの中、ミニ講習会も行われました。また、参加者の交流も深まりなごやかな会場でした。

支部長 田中 ひとみ 記



☆松涛支部

2014年5月27日から6月1日まで銀座清月堂画廊1F、2Fで「ストライプ チェック」をテーマにしたスモッキング刺繍の作品展を開催いたしました。会場では会員一同が持ち寄った刺繍作品の即売も行いました。

故松本良子がおよそ60年前に設立した「松涛会」の意思を継承しつつ、会員一同なごやかに活動しております。

支部長 松本 志津美 記



●東京都からの後援承認について

来る11月8日から開催される当連合会主催の「第47回創作手工芸展」に対しまして、このほど東京都からご後援いただくことが正式に決定し、従来からご後援いただいております文部科学省、読売新聞社と共に、3つのビッグネームのご後援体制が整うこととなりましたので、お知らせいたします。

第47回 ● 公募 ● 賞 文部科学大臣賞 他

創作手工芸展

会場 東京都美術館ギャラリーC
2014年11月8日(土)～11月15日(土)

9:30～17:30 (最終日は13:00まで)
入場は閉室の30分前まで

入場無料

後 援
文部科学省
東京都
読売新聞社

主 催
公益財団法人 日本手工芸作家連合会

●原田教室

広島県 原田 泰子

平成21年の連合会機関紙「創作手芸」に私どもの教室「なづな」グループを紹介させていただいてから早くも5年が経ちました。

当然、私も「なづな」グループも5年の歳月を積み重ね、その間にいろいろと皆の人生にも変化がありました。

そんな中でも、今年「白寿」の方が老人ホームにお入りになりながらも、嬉しいことに、そこでも刺繍小物等を作ってスタッフの皆さんにプレゼントされるなど、楽しく過ごしておられるお話をお伺いして、こちらも元気を頂いたような嬉しい気分になりました。

前回の最後の行に、「これからも皆で『楽しい創作』を続けていきたいと思っています」と素直にそう思って書きましたが、今や私も84歳、つつい今後を真剣に考えてしまうようになってきました。ところが、グループの皆さんは、相も変わらず平気で刺繍を楽しんでいます。アレ！？

私は偉そうに責任を感じすぎているのかもしれない。それぞれの方には、独自の発想があって、私はそれに添って一緒に考え、アドバイザーであればよいのだ、と気づきました。

今年も8名8作品を、第47回創作手工芸展に出品参加することになっています。作品の出来上がった今、「大変だった」とは私も含めて誰も思っていないようです。面白がって、楽しく出来上がったと思っています。

「大好きなこと」を一生懸命にできるということが、人生を左右するほど大切で幸せなことだと、改めて感じております。

(3) 平成21年10月10日

創作手芸

第187号

輝ける人々 第八回

今回は本会の各教室訪問として刺しゅう作家でいらっしゃる原田泰子先生に原稿をお願いいたしました。



あと半年ばかりで八十歳大关に乗る事になる私です。いつの間にか――
振り返れば、子供の頃から針や布で遊んでいた私は、ずっと布糸・針で、楽しんでこの年齢になってしまいました。
四十三歳で亡くなった母は、手仕事の大好きな人でした。見よう見まねから始まった私流刺しゅうでしたが、父の転勤地ここ広島で、故野間幸子先生、故小田切東江先生、ご姉妹の先生にお教えを頂き、世界の様々な刺しゅうの技法を学びました。



月曜クラス

また、大妻コタキ先生が設立された例会、日本手芸作家連合会に入会、四十年が経ちました。あつと言いつきに手芸人生は半世紀を超えましたが、その間多くの方との出会いがありました。四十年代は、鈴峯女子短大の放石谷秀子教授のお誘いで十二年間、非常勤講師をさせて頂き、その間、私は学生さんの中学校教員免許取得に必要な科目の研究に励事となりました。多くの若い世代の素晴らしい感覚に触れた事は決して大切な思い出です。
刺しゅうの技法は、布目を数え拾って制作するものと、自由に糸を刺して制作するものとに大別されます。それにそれぞれの国、地方の気象風土に合った色々な仕方が生まれてきています。私達はそ



土曜クラス

の基礎的技法を学び、その基礎は大切にしながら、それをアレンジしたり、細く合わせたりして使わなければならぬと思います。私の家に集まって一日中刺しゅうを楽しんでいるグループ(「なづな」と称しています)は月曜クラスと土曜クラスがあり、最高齢は九十三歳、次が八十五歳、殆どが七十歳代、六十歳代、皆で一緒に歳を重ねてきました。希少価値の五十歳代の方は、皆さんのお世話を積極的に行っています。グループのコンセプトは、一年に一人一点は独自の作品を創ること。そして昔の「いつとも刺しゅうをしていない病」には、気象に真似ても良い見本的なものを私が作っておくこともあります。



「よ風になぞられて」
広島原田教室 原田泰子作

それぞれの作品は目頃の自分の思いを膨らませ、「こんな事を表現してみよう」。そこから歩き始めます。素材選び、画面構成、技法、色彩、一面苦しい作業ながらやはり楽しんでるのが本音だと思います。
各々の創作作品は次第に意欲的になり、最近毎年数点創作手工芸展に出展、文部科学大臣賞をはじめ、いろいろと素晴らしい賞を頂き、皆で喜んでおります。しかし、その事は、楽しく働んだ事がすべての基本だと思います。私の年齢も大きい節目にきて、今言えることは「大好きな事があって本当に良かった」と言うことです。これはグループ皆の合言葉でもあります。これからも皆で「楽しい創作」を続けていきたいと思っています。

原田 泰子

空が美しく
雲が美しく
山が 野が 道が 鳥たちが
みんな美しく生き生きしています

私達にもこれからの課題はいろいろ残されています。 力まず、楽しく、一人一人が自分と向き合って制作し、喜びを皆で分かち合いたいと思っています。



●海外活動：セルビアでのワークショップ活動について

2014年8月末から9月にかけては、遠いバルカン半島の国セルビア共和国での、国、文化、世代を超えた心に残る交流の日々となりました。

今回セルビアを訪れた第一の目的は、コソボ難民の「おばあさんの手」プログラムの皆さんと、特定非営利活動法人ACC・希望とセルビア提携団体ZDSの支援活動として、織・編の手仕事ワークショップを行い、おばあさんたちがこのワークショップに参加することにより今後のより良いモノ創りへの意識の変化に繋ぐことができるといふものです。

最初におばあさんたちの制作・発想のもととなる、糸・布等の材料の現地調達が可能かどうか、材料屋さん巡りから民族博物館の見学、手織作家母娘の自宅を訪ね工房見学・作品を通しての交流など、多岐にわたる準備活動を行った後、日本の軽井沢のように美しい、穏やかな温泉避暑地ヴルニャチカ・バニャで、おばあさんたちと初めてお目にかかり、そこでワークショップを行いました。

1日目は、編物のサイズを統一するための型紙の提示とゲージ制作。2日目は段ボールで綴織実習。手軽に柄を織りファッション小物への応用についても説明しました。また、今後のデザイン力、作品制作能力向上に繋げるために、今までおばあさんたちが制作した作品を例に示しながら注意点を指摘することを試み、目的による素材や技法の使い方、色の組合せについての説明もしました。

おばあさんたちが身につけている伝統的刺繍・編物・織物の技術、独特の色使いを大事に活かしながら、日本(セルビアも)での頒布に値する作品を制作することは、社会的・心理的・経済的自立への意識を形成していくことに繋がります。初めは緊張した表情のおばあさん達も、徐々に会場の雰囲気慣れ、ワークショップに集中し、サンプル作品を手に取り、持参した日本の雑誌に目を通す熱心な姿も見られました。時間はかかると思いますが、必ず変化につながると思います。



本連合会評議員 佐久間 恭子 記

●展示会

サローネ フランソワ フランス刺繍展

2014年5月15日～17日まで広島本通り

アンデルセン6Fにて

大勢のお客様に絵の様な刺繍作品に感激して頂きました。

広島県 上田 佳子



●平成26年度研修講演会開催のお知らせ

- ※研修内容 松岡美術館展示作品鑑賞後、懇親昼食会を経て、講演聴講
- ※講演内容 「手工芸創作者の感性と日本文化」講師：当連合会理事 三和正明
- ※日時・定員 平成26年12月11日(木) 午前10時～午後2時半、定員20名
- ※会費 5,000円(但し、当連合会会員は4,000円)
- ※申込み締切り 平成26年12月1日(月)

詳しくは、本機関誌に挿入している案内状【平成26年度「研修講習会」開催のお知らせ】、もしくはホームページをご覧ください。当連合会事務局(月・水・金)まで直接お問い合わせください。

平成26年度 後期講習会のご案内

開催日	講師名	テーマ	会場	時間
H26.12/13	菅原美東	干支色紙	京橋越前屋ビル8F	10:30~15:30
H27. 1/15	松本志津美	パフウール(フェルトパンチャー使用)	クロバー(株)日本橋馬喰町ビル4F	10:30~15:30
H27. 2/24	大塚昌子	ポタリー	京橋越前屋ビル8F	10:30~15:30
H27. 3/14	松本由岐子	面白くて工夫のある帽子	京橋越前屋ビル8F	10:30~15:30

会員作品展のご案内

会期	テーマ	作家	会場
H26.10.29~11. 2	カルトナージュの世界	よこた圭子	渋谷区代々木上原Do Progetto
H26.11. 3~11. 6	メルヘンの人形展	植原たい子	かつしかシンフォニーギャラリー2階
H26.10.27~11. 4	ザルツブルグのクリスマス	リビエール	横浜高島屋
H26.11.23~11.30	第8回薬師が丘作品展	原田泰子	広島薬師が丘第一集会所ホール
H27. 2月予定	手作りフェア in 九州	田中ひとみ	マリンメッセ福岡

●公益財団法人に関するQ & A

Q：公益財団法人はどんな特色があるのですか？

A：当連合会は平成25年3月に公益財団法人の認定を受けました。これから数回にわたり新しい公益法人制度の特徴についてお知らせします。平成20年12月に施行された公益法人制度改革関連三法(一般法もしくは法人法、認定法、整備法)によって、当連合会は従来の文部科学省を主務官庁とした財団法人日本手芸作家連合会から、移行期間(平成24年度)の特例民法法人を経て、公益財団法人日本手芸作家連合会になりました。この公益法人制度の改革は、明治時代から約120年間続いた従来の公益法人制度(民法34条)から、「民による公益の増進」を一層進めるための非常に大きな改革です。新しい制度では、従来の主務官庁による裁量が変わって法律や政令等により「公益性の判断」基準が定められ、これらの基準に合致しているかが問われることになりました。法人自らの創意工夫による運営が重視され、責任遂行が求められます。また、税制優遇措置の拡大が図られ、公益財団法人に寄付した人には寄付金控除等の優遇措置が適用されます。

事務局 海老澤 光夫 記

資格取得へのおすすめ

●本連合会は、手工芸教育の普及発展を目的として、手工芸指導者の養成教育に資するために資格認定・免状授与を行っております。資格取得後は手工芸セミナーの指導者、社会教育における中学・高校での指導者、生涯教育における指導者などの派遣を通してさまざまな手工芸分野で活動し、技術の向上に貢献しております。また、支部・教室で技術を習得することもできます。資格取得は生涯学習の宝です。

●新入会員紹介（平成25年10月～平成26年9月）

草間 久江(東京都) 岡山 絵美(東京都) 森山 さち子(東京都) 原 浩子(広島県)
磯部 一枝(静岡県) 筒井 真喜子(東京都) 吉田 仁美(東京都) 後藤 恵子(埼玉県)
田中 英子(東京都) 小川 幸子(千葉県) 堤 千代子(千葉県)

●教室登録者

今岡 佳子(広島県)

事務局だより

●免状登録料および支部・教室の開設認定料の改定について（平成26年4月1日改定）

項目	資格	改定前金額	改定後金額
免状登録料	講師	50,000円	30,000円
	助教授	70,000円	40,000円
	教授	100,000円	50,000円
開設認定料	教室	100,000円	50,000円
	支部	200,000円	100,000円

●第47回創作手工芸展への出品作品を掲載した図録をお求めの方は、当連合会事務局（月・水・金）まで直接お問い合わせください。

●プチ情報

☆ 講座「正倉院の染物」

日 時 11月9日(日)、11月23日(日) 申込制

会 場 帝塚山大学 奈良・学園前キャンパス 18号館18311教室

問合せ先 日本織物研究会事務所 FAX 0742-41-4749 weave81@tezukayama-u.ac.jp

☆ 東京都美術館特別展

ウフィツィ美術館展（黄金のルネサンス）

日 時 10月11日(土)～12月14日(日)

☆ 第14回東京国際キルトフェスティバル

日 時 2015年1月22日(木)～1月28日(水)

会 場 東京ドーム

●次回発刊予定のご案内

SOUSAKU 198号(創作手工芸)の次回発刊は
平成27年4月を予定しております

●表紙作品：佐久間 恭子 「想・さざなみ」

(第46回創作手工芸展 東京都議会議長賞受賞)

発行日／2014年10月吉日

発 行／公益財団法人日本手工芸作家連合会
〒101-0052

東京都千代田区神田小川町3-6-10

MOビル 407号室

TEL 03-5282-5141 FAX 03-5282-5140

E-mail:info@syukogei-sakka.or.jp

URL <http://www.syukogei-sakka.or.jp/>